

地域愛称マップ

ごとう

五島地区



----- 地区境界線

1 大明神通り (だいましんどおり)



この通りのほぼ中央にある新羅神社は、大明神の名で五島地区の住民に敬愛されている。江戸時代中期に浜松藩主の命で小笠原源太夫が、新田の開発、排水路の開設をした時、祖先ゆかりの近江の国の新羅大明神を勧進して祭ったものである。後に五島地区の戦没者を祀り、道の東沿いに戦没者慰霊碑や浜松市合併記念碑が建っている。



2 源太夫堤 (げんだゆうつつみ)



江戸時代中期に浜松藩主の命で小笠原源太夫、基長に新田開発と排水路開設に当たられた。水路は船で物資の運搬にも利用され、掘り上げた土で両側に堤を築き、松や柳を植えた。村民は源太夫の功績をたたえ、この堤を源太夫堤と堤を源太夫堤と呼んでいる。



3 楽園跡 (らくえんあと)



ここは以前、馬込川の入江となっていて、楽園と言われた施設もあって海水浴や貸しボート、温泉に入って近所の人以外にも遠方から船で訪れにぎわった。



4 江之島橋跡 (えのしまばしあと)



昭和28年の新江之島橋開通までは、ここが江之島から他村や街に出る唯一の交通路であった。この木橋は欄干もなく老朽化してからは通行に苦労した。今は廃道となり草木に覆われている。西方に開通した江福橋から、干潮時に橋げた跡が見られる。



5 鷺の山 (さぎのやま)



今日のように開発される以前、ここは鷺の山と言われた。小高い丘があって、人々の憩いの場所となっていた。その美しい名前と共に、人々の心に今でも残っている。



6 新源太夫堀跡 (しんげんだゆうぼりあと)



江戸中期に掘られた源太夫堀が次第に埋没してしまっただけで、約100年後、時の藩主水野忠邦が、新しく南方に幅員10m(1.8m)の水路を開削し運河としても利用した。千四百間(約250m)にわたって開削した。これを「新源太夫堀」と言う。



7 十五メートル道 (学校東通り) (じゅうごメートルどう)



この道は2011年に閉校した五島小学校のすぐ東の県道315号(五島天竜川停車場線)で、五島地区では新しい道幅15mの広い道で15メートル道と呼ばれた。



8 本田 (ほんでん)



西島町の西北に位置し、この道の北側の集落が本田と呼ばれた。しん道が出来るまでは、この本田を通過して北の芳川村から街に出た。



9 しん道通り (旧五島村役場跡) (しんどうどおり)



この道は昭和初期に開通し、乗合自動車が運行された時の五島地区唯一の道路であった。沿道には、旧五島村役場や駐在所、消防分団、商店があった。



10 宮前通 (みやまえどおり)



貴船神社の東側の南北の道路を宮前通という。この神社は、五島地区の神社仏閣の中で一番古く、桃山時代(1574年)に創建されたと言われている。



11 源太夫堀跡 (げんだゆうぼりあと)



浜松藩主松平伯耆守が天竜川と浜松の便を図り、家臣の小笠原源太夫に命じ運河を築かせた堀の跡である。通称ゲンダイポリと愛称されていた排水路である。天竜川から西へ芳川まで長さ約4km、幅10mで3年の歳月がかかった。



12 御船置場跡 (みふねおきばあと)



この付近は、江戸時代農民が年貢米の上納のため船を利用し水上運搬したと伝えられ、芳川に面した入江の一角に船をつなぎおくところがあった。



13 福島浜道 (ペイトン号通り) (ふくしまはまみち)



福島の集落から前浜に通じる道であり、その昔半農半漁の生活で農作業や地引網のため一日何往復もした道であった。明治時代の初め前浜で難破した英国貨物船ジェームズペイトン号の乗組員の救助に往復した道で、往時の先祖が埋葬された墓跡が道沿いに残っている。



14 平左衛門地蔵通り (へいざえもんじそうどおり)



西島町と福島の間の道で北側は平左衛門と呼ばれている。江戸時代源頼朝の家族松平家から出た松平平左衛門が開拓した。この道の先、東方は洪水で出来た大池が分断し、道は北に迂回していた。池の東南地区は五千石と呼んでいるが由来は定かでない。昔この大池の畔で行き倒れた行者を憐れんで、お地蔵様が建てられ、今でも平左衛門地区の人々が守っている。



15 沢木地蔵通り (さわきじそうどおり)



その昔、近くの池で亡くなった娘の霊を慰めるため、建てられたといわれたお地蔵様が沢木のお地蔵様で有名。西島町の沢木地区内にあり、霊験あらたかなお地蔵様で信者のお参りが絶えない。そのお地蔵様の南側を、松島町より西島町に通じる道路をいう。



16 松島五右衛門屋敷跡 (まつしまごえもんやしきあと)



松島町は、慶安元年(1649年)当時天竜川支流があった河原を、松島五右衛門が開拓したのが始まりである。この地は、その松島五右衛門より12代続き、代々松島五右衛門を襲名した旧家の屋敷跡である。北方の祐泉寺に松島五右衛門の墓があり、また五島小学校の前身の松島学校があった。



17 亀様通り (かめさまどおり)



昭和20年頃、近くの海岸で不幸にも命を絶たれた正覚坊(アオウミガメ)の霊を祀るため建てられたお地蔵様で、霊験あらたかな評判で遠近より信者が多い。通称「亀様」という。この亀様の東側を、松島町外野より海岸に通じる道路をいう。



18 新源太夫堀跡 (東端) (しんげんだゆうぼりあと)



この位置にある堀は新源太夫堀であり、源太夫堀が使えなくなったので、文政年間の藩主水野忠邦の命で新たに建設した運河で、長さ1400間(約2400m)幅員10間(1.8m)であった。この運河を掘って積み上げた堤の跡が残っている。



19 鶴島 (つるしま)



鶴島は、松島町の北部の集落で鶴島と呼ばれる。五島村の島の一つで、浜松市に合併時に松島町に併合された。五島地区の地図で東北に鶴首の様に細く伸びた地域である。



20 三軒屋 (さんげんや)



松島町の南部の集落で、初めは3軒の家から始まったが、その後南方に発展して住居が増え、松島町南の中心をなしている。



21 遠州浜中央通り (えんしゅうはまちゅうおうどおり)



遠州浜一丁目源太夫橋より遠州浜四丁目までの道路を遠州浜中央通りという。浜団地内の中央を東西に通じる幹線道路であるためこのように命名した。



22 遠州浜中央通り (遠州浜小学校跡) (えんしゅうはまちゅうおうどおり)



遠州浜一丁目より遠州浜四丁目まで、浜団地の南側を東西に通じる道路を松風通りという。道路の南側の松林(防風林)が、さわやかな風を呼び健康道路である。



23 遠州浜中央通り (えんしゅうはまちゅうおうどおり)



遠州浜三丁目と四丁目の境を南北に通じる道路を、ひがし通りという。この道路は浜団地内の東側に位置するため、このように命名した。



29 ひがし通り (ひがしどおり)



遠州浜三丁目と四丁目の境を南北に通じる道路を、ひがし通りという。この道路は浜団地内の東側に位置するため、このように命名した。



24 松風通り (まつかぜどおり)



遠州浜一丁目より遠州浜四丁目まで、浜団地の南側を東西に通じる道路を松風通りという。道路の南側の松林(防風林)が、さわやかな風を呼び健康道路である。



25 松風通り (まつかぜどおり)



遠州浜二丁目と三丁目の境を南北に通じる道路を、中央公園通りという。道路の西側に遠州浜第2公園があり、この公園は浜団地内のほぼ中央に位置し、夏まつり広場にもなっている。



26 松風通り (まつかぜどおり)



遠州浜一丁目内の南北に通じる道路を、西商店街通りという。この通りは浜団地内の西側に位置し、商店が立ち並んでいるため、このように命名した。



27 中央公園通り (ちゅうおうこうえんどおり)



遠州浜二丁目と三丁目の境を南北に通じる道路を、中央公園通りという。道路の西側に遠州浜第2公園があり、この公園は浜団地内のほぼ中央に位置し、夏まつり広場にもなっている。



28 中央公園通り (中央商店街跡) (ちゅうおうこうえんどおり)



松風通りと浜風通りとの交差点の南側に汐見峠(潮見峠)がある。浜団地内から海に出るまでの間、小高い松林がありこの様に呼ばれた。西島のしん道通りから続く浜への出口で、前浜での漁業が盛んな頃は、西島の漁業組・一心丸の目見峠やツバコ掛けの松があった。



31 浜風通り (はまかぜどおり)



遠州浜一丁目と二丁目の境を南北に通じる道路を、浜風通りという。この通りは、しん道通りの延長で南の汐見峠からの潮風が通り抜ける位置にあるため、このように命名した。



30 西商店街通り (にししょうてんがんどおり)



遠州浜一丁目内の南北に通じる道路を、西商店街通りという。この通りは浜団地内の西側に位置し、商店が立ち並んでいるため、このように命名した。



32 汐見峠 (潮見峠) (しおみとうげ)



松風通りと浜風通りとの交差点の南側に汐見峠(潮見峠)がある。浜団地内から海に出るまでの間、小高い松林がありこの様に呼ばれた。西島のしん道通りから続く浜への出口で、前浜での漁業が盛んな頃は、西島の漁業組・一心丸の目見峠やツバコ掛けの松があった。



33 五島灯台跡 (ごとうだいあと)



昭和38年に設置された総タイル張りの高さ13メートルの灯台で、五島海岸のシンボルで、小学校の遠足の目標にもなっていた。海岸の変化で波打ち際が迫り、平成14年に電洋や舞阪に新しい灯台が出来て廃止され、取り壊された。



34 ジェームズペイトン号難破跡 (じーむずべいとんごうなんぱあと)



明治8年に英国の貨物船ジェームズペイトン号が嵐に遭い、この辺りで座礁し救助を求めた。福島の住民が総出で乗組員16人を救助し、村内に逗留させ世話した。船は壊れて、波や砂に埋もれてしまった。

